ご家族用クロザピン（クロザリル）説明書（簡略版）

　統合失調症を有する方の中には、複数の抗精神病薬を充分な量、充分な期間服用していただいたにもかかわらず効果が充分でない、あるいは副作用のために充分な増量ができず、なかなか退院できないなど生活に重度の支障を来していらっしゃる方がいます（治療抵抗性統合失調症といいます）。そのための治療薬がクロザピン（クロザリル）です。
　クロザピンは、CPMS（クロザリル患者モニタリングサービス）の管理のもとで、認定された施設、認定された医師によってしか処方ができません。
　クロザピンは、一般的な抗精神病薬の副作用（錐体外路症状、糖尿病など）のリスクのほか、顆粒球減少症、心筋炎などの特別な副作用があります。また、突然死のリスクも、ほかの抗精神病薬よりも若干高いというデータが多いです。
　クロザピンによる治療を行う場合には、定期的に採血検査を行います。治療初期は週1回ないし2回で、安定していても4週間に1回の検査が必要です。検査の値によってはクロザピンの継続が不可能になることがあります。重篤な副作用が生じれば転院などの可能性もあります。
　クロザピンの治療開始は、少なくとも18週の入院が必要です。
　クロザピンを服用している間は、最初の4週間を除き、ほかの抗精神病薬を服用できません。また、例えば身体の病気になったときにも、入院できる病院に制約があります。

詳しい説明は多摩あおば病院の方で行います。